

令和2年10月30日

報道機関 各位

第20回「人文知」コレギウム 「日本語の世界」オンライン開催

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的を開催しております。「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味です。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります。

11月18日（水）に第20回を開催します。今回は「日本語の世界」をテーマとして、以下2名の研究発表を行います。詳細は、別添チラシをご参照ください。

なお、本研究会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインでの開催となります。一般の方々や学生の聴講も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

日時：令和2年11月18日（水）13時30分～15時30分

開催：オンライン（Zoom）／定員290名 ※事前登録が必要です。

発表：

中井精一（日本語学・教授）

「南米日系人の日本語と日本文化－世代間継承に注目して－」

樋野幸男（日本語学・教授）

「ミンナ解ケテル準体方程式から、ある種の主節動詞に起因する準体構造の形式化」

以上

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 人社系総務課（人文担当）

TEL. 076-445-6131

富山大学人文学部富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

第20回「人文知」コレギウム

～日本語の世界～

2020年11月18日（水）13:30-15:30

中井精一（東アジア言語文化コース教授）

「南米日系人の日本語と日本文化－世代間継承に注目して－」

本発表では、ブラジル富山県人会および各移住地で実施した聞き取り調査をもとに、日系人社会が共有し受け継いできた伝統文化や習慣、言語生活や方言について報告する。とともに、調査から見えてきた南米日系人社会における日本語および日本文化の継承とその意義について考えてみたいと思う。

樋野幸男（言語学コース教授）

「ミナ解ケテル準体方程式から、ある種の主節動詞に起因する準体構造の形式化」

日本語では、文の中に文を埋め込むと《準体》を形成する。[太郎ガ遊ンデイタ]を[花子ガ[ソレ]ヲ見タ]に埋め込むと「花子は太郎が遊んでいるのを見た。」となる。本報告は、準体構造を概観して問題点を指摘し、樋野が主張する事象準体・属性準体につづく第3の準体を、従来の《主要部内在型関係節》から新たな理解へ転換する。

オンラインZOOM開催（**要事前申込**）

下記URLからお申し込みください。

後日、登録されたメールアドレスに詳細をお送りします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfKLi7d01_ojXDGD1JBnjjMM1Cxyjh54vQ90DmWTdhlyeyqQ/viewform?vc=0&w=1&flr=0&usp=mail_form_link

申込締切: 2020年11月15日（日）

学生・一般の方の聴講歓迎。無料。

お問い合わせ 富山大学人社系総務課（人文担当） jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp